

## 平成 28 年度 第 1 回奈良市学校規模適正化懇談会 会議録【概要】

- 1 日 時 平成 28 年 8 月 19 日(金) 10:00~11:00
- 2 場 所 奈良市役所 第 21 会議室
- 3 参加者 委員 5 名(欠席 3 名) 事務局 6 名
- 4 内 容
  - (1) 自己紹介
  - (2) 座長の選出
    - ・座長には重松敬一氏(奈良教育大学名誉教授)が選出された。
  - (3) 配付資料の確認
  - (4) 事務局より中学校区別実施計画(案)「後期計画」(案)について説明  
実施計画の期間の変更について
    - ・平成 19~28 年度(10 年間)としていた全体計画を平成 32 年度(14 年間)まで延長する。  
統合再編時の校名等について
    - ・校名等の協議を円滑に進められるように統合再編時に係る校名等について案を提示する。  
中学校区別実施計画(案)「後期計画」(案)【H28~32 年度】について
    - ・過小規模校及び小規模校の統合再編を検討していく。
  - (5) 各委員からの意見(主なもの)
    - ・統合再編に関しては、今後も保護者や地域に対して丁寧に説明して行ってほしい。
    - ・過小規模校に関しては、複式学級などのデメリットの部分を説明していたが、小規模校となるとメリットとデメリットをどのように説明していくのか。難しいとは思いますが、その部分をしっかりと伝えていかなければならない。
    - ・小学校で 11 学級以下の学校は全国でも約半数あるらしいが、そのような小規模校がなぜ統合再編が必要であるかなどという教育理論をしっかりと考えなければいけない。
    - ・保護者の立場からすると、子どもをきめ細かく見てほしいという願いもある。だから例えば人数が 40 人で 1 学級ならば、2 学級に分けて複数の学級にすることでクラス替えができるというような方法もあるのではないか。
    - ・今後、国が目指しているビジョンをしっかりと視野に入れて、奈良市としてもそれを入れ込んで目指していくとよい。
    - ・小中一貫教育を行っていくということだけではなく、施設整備も行い、理科室では特別な実験も可能であるとか ICT を整備していくなど具体的な姿が見えるようなことを示していくとよいのではないか。
    - ・これからは英語だけでなくプログラミング教育など新しいものがどんどん入ってくるので、対応する教員が大変な状況になるだろう。小規模校ではそれらを少ない人数の教員でやっていかななくてはいけないので、適正化によって教員が多く配置できるメリットも出していくことが大切である。
    - ・通学の安全・安心も含めて統合再編を考えていかなければいけない。